



2号館入口



実習サポートセンター



和泉短期大学同窓会室 2号館



研究室

2019年度 聖句

「わたしがあなたがたを選んだ。
あなたがたが出かけて行って、
実を結び、その実が残るようにと」
(ヨハネによる福音書第15章16節)



CONTENTS

「愛と奉仕」— 保育・福祉専門職として —	2
卒業生の活躍	3
2019年度 新任教職員紹介	5
2018年度決算書・2019年度予算書 概要	6～7

「愛と奉仕」—保育・福祉専門職として—

横須賀基督教社会館 館長
学校法人和泉短期大学 理事

岸川 洋治

私が勤務する横須賀基督教社会館(以下、社会館と略す)は、1946年、日本基督教団社会委員会を中心となって設立されました。任意団体から社会福祉法人となりジョージ・アーネスト・バット博士が初代理事長となりました。私はバット博士に関連のある和泉短期大学、バット博士記念ホームそして社会館の役員を担うことができ光栄に思います。

バット博士は、1925年から東京・江東区のスラム街で貧しい人々の友となって生活の自立を支援しました。戦後いち早く再来日し、今度は食糧、医薬品、衣類などの物資に窮乏していた国民に支援財団「ララ」を通して物資を配分する仕事の責任者を務めました。6年間で当時のお金で400億円に相当する物資を必要な人に配り、約1400万人がその恩恵を受けました。生涯をとおして献身的に日本のために仕えたバット博士の「愛と奉仕」の精神を私たちは受け継いでいることは何と幸いなことでしょうか。



社会館は認定こども園、学童保育、放課後等デイサービスの他、高齢者、障害者に対する通所事業、総合相談事業、地域活動などの事業を行っています。利用者の年齢は0歳から103歳までの方が利用し、職員は保育教諭、介護福祉士、社会福祉士、ケアマネージャーなど12の職種の人が働いています。

和泉短期大学の卒業生で石川彰子さん(1990年卒・旧姓安江)のことを紹介したいと思います。石川さんは卒業後、障がい者施設に勤務した後、社会館の保育所(現在は認定こども園)保育士として就職しました。保育士として経験を積み重ね、4年前、障害を持つ子どもたちが利用する放課後等デイサービスの管理者・児童発達支援管理責任者の資格を取得しチーフとして日々忙しく過ごしています。

石川さんはクリスチャンではありませんが、キリスト教主義の法人理念を大切に受け止めています。担当の障がいを持つこども達と学童保育のこども達が合同で毎月、礼拝を行っています。石川さんには学生時代に受けたキリスト教教育が根底にあるので、子どもたちの成長に礼拝は大きな意味があると考えています。

資格を得ることが学生生活の目的ではないと思いますが、現在の福祉の職場は有資格者を求めています。また資格がなければ希望する職種に就くことはできません。さらに、資格が将来思わぬ人生を切り拓くかも知れません。

皆さんは子どもが好きだ、保育士になりたい、幼稚園教諭になりたいといった理由で和泉を選んだのではないのでしょうか。従って選択科目で保育以外の科目には関心が薄いという人もいるかも知れません。

でも今の社会状況をよく考えてみて下さい。最近では複数の生活課題をかかえている家庭が多くあります。例えば保育園に通う園児の母親が親あるいは祖父母の介護をしている人がいます。

保育教諭は園児の保育教育が第一義の仕事ですが、母親が親の介護をしていることも理解しその家庭を支援することができれば素晴らしいことです。

障害者福祉論、高齢者福祉論は自分自身のキャリアアップにも結びつく科目だと思います。さらに、和泉には専攻科介護福祉専攻があります。この専攻科はこれからの超高齢社会となる10年先、20年先を見据えて設置された非常に稀な専攻科です。日本で最初の専門職としての介護福祉士を養成するために創設された伝統と教育内容を受け継いでいます。和泉は児童福祉学科だからこそ専攻科と一貫した教育ができるのです。このことは他の短大にない和泉の大きな特色であり、保育と介護の資格は福祉の仕事をする上で選択肢が大きく広がります。

和泉の卒業認定・学位授与の方針の一つに「保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる」とあります。私は線を引いた個所に注目しています。

専門職として最も基本的で大切なことをアーネスト・グリーンウッドが「専門職の特質」の中で次のように述べています。

「すべての専門職は①体系的理論、②専門的権威、③社会的承認、④倫理綱領、⑤専門職的教養の5要素持っている。専門職的教養の内容として、その中心概念の一つがキャリアであり、キャリアという言葉は一般的に専門的職業との関連でのみ使用される。キャリアとは本質的には『召命』‘a calling’ 即ち『良き業』‘good work’に献身する生活を言う」と述べています。ある福祉思想家は「専門職的職業の奥底に、人間の実存に触れる真剣な生命的意義との対決が隠されている」と言いました。専門職としての保育・福祉ワーカーにとって最も根源的な重要なことを指し示しています。保育・福祉という職業に召命を覚え、ひとりの命に向きあう姿勢を持つことにより、専門職としての実践力は確実に身につくのでしょうか。

この「召命」にはキリスト教の精神が背後にあります。和泉のキリスト教教育によって培われた「愛と奉仕」の精神を持った専門人として活躍できる人を社会は求めています。

実習を通して

児童福祉学科 小野家 溪

(都立町田総合高等学校出身)



私は知的障がいのある方が利用している障害者支援施設で実習を行いました。今まで障がいを抱えた方と長く関わる経験がありませんでした。実習を始めた頃は、緊張と不安があり、自分の体が思うように動きませんでした。ですが、日が経つにつれ障がい、こだわりの理解を深めることができました。しかし利用者さんの中には「言葉」でのコミュニケーションが難しい方もいて戸惑いました。このとき、日常生活において「言葉」に頼りすぎていると感じました。施設実習を通して、たくさんの方の経験を学び、自分の世界観が広がりました。そして専攻科に進学して学びたいと思うようになりました。この学びを今後の学びに繋げたいです。

専攻科介護福祉専攻 中村 瑞穂

(県立高浜高等学校出身)



私は特別養護老人ホームで実習させていただきました。高齢者施設での実習は今回が初めてで緊張もありましたが、とても多くのことを学ぶことができました。特に、傾聴やうなずきなど非コミュニケーションを活用したコミュニケーション、そして利用者にとってより良い生活支援技術について学ぶことができました。どれも学校の授業だけでは学ぶことができないものです。実際に利用者の方と接することがとても大切だと思いました。限られた6日間ではありましたが、私にとって大きな経験となりました。そして、さらに学びたいという気持ちも芽生えました。より良い介護福祉士を目指し、今回の経験をこれからの学びに生かして行きたいと思っています。

卒業生の活躍 (第20回)

学校法人杉並学園 虹ヶ丘幼稚園副園長(相模原市)

1999年卒業 金子 亜矢さん

私は恩送りという言葉が好きです。

恩返しはもちろんですが、自分が受けた恩を次の世代に送る。

学生時代、和泉の先生方はいつもおおらかに見守って下さった記憶があります。

お陰で諦めることなく幼児教育の道に進み、20年この世界に携わり沢山の子どもの笑顔と成長を見るのが出来ました。

昨今、幼児教育の担い手



不足が叫ばれておりますが、子ども達の健全な成長のためには、質の高い保育者・教育者の確保が必須です。今、実習生をお預かりする立場となり、先生の卵の学生さんたちにこの「恩送り」をしていきたいと切に思っています。

実習に来てよかった、子どもが可愛かった。成功体験は意欲の原動力です。学生さんたちに希望の種を沢山与えられるような幼稚園でありたいと思います。

私自身も、新人の時には、自分が3歳の時にお世話になった先生と組んで担任を持ち、その時に担任をしていた子が今度は自園に就職をして一緒に働いています。ご縁や恩は回りの次の世代へと繋がるのだと感じます。

未来を担う子供たちのために、これからも尽くしていきたいと思っています。

中国南京市幼児教育中日友好交流団の訪問

近年、中国(中華人民共和国)における経済の発展が話題にされます。経済投資が中央だけでなく地方のいくつもの経済特区へ積極的に行われ、最近では開発区域内の集合住宅に整備された公立幼稚園の充実ぶりには目を見張るものがあります。また富裕層の教育熱心な親の存在が私立の幼稚園の需要を高めています。

そのような背景の中、日本の幼児教育・保育に関心を持つ中国の先生方がインターネット、TV放送の情報だけでなく実際の見学や交流を持つ機会を希望されるようになっていきます。

私の中国人の友人は日本に家族で留学中、お子さんを幼稚園に通わせて日本の保育に共感を持ちました。帰国後、幼児教室の経営を始めそこからのネットワークが発展し、得意な日本語を活かした訪問団の活動に繋がっています。

その活動から6月24日に南京市の教育局で養成にも携わる俞洋先生を始め20園の園長等総勢24名の訪問団が来訪されました。朝から和泉保育園での行事に参加し子どもたちとも交流を持ちました。その後、和泉短期大学の図書館、キャリアデザインセンターを見学し学食で特製ランチ、午後は教室でゲストスピーカーによる保育実践報告と日本の保育についての講義の後、深町理事長、佐藤学長、土橋事務局長への表敬挨拶と有意義な交流の機会が備えられました。すべてのプログラムを終えた先生方は大変喜ばれ次の訪問先へ向かわれました。今後への継続的な交流の可能性を感じさせられる一日でした。

社会福祉法人相模和泉福祉会 和泉保育園園長 片山 知子



国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン リジョン賞の授与式が行われました

2019年5月16日(木)、相模原市民会館(4階第3中会議室)において、児童福祉学科2年 山崎真理子さんが、国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン「夢を生きる～女性のための教育・訓練賞～」および、国際ソロプチミスト相模「クラブ賞」を授与されました。国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン「夢を生きる～女性のための教育・訓練賞～」は、1972年以来、今以上の教育や技能訓練を得ることによって、より良い生き方を目指している女性を応援し、賞金を提供するものであり、国際ソロプチミストアメリカの主要なプログラムです。

国際ソロプチミスト奨学金を受けて

2年生 山崎 真理子

どんな困難にあっても、どんな境遇にいても、夢を生きることを応援してくださる方がいることにとても励まされました。これを機に目標に向かって進んで行こうと決意を新たにしています。



TOPICS

2019年度高校教員進学説明会

2019年5月14日(火)・15日(水)の2日間、本学にて「2019年度高校教員進学説明会」を開催しました。多くの高校の先生方に参加いただき本学の概要説明、2020年度の入試説明の後、個別相談、学内見学をしていただきました。



就職懇談会

2019年5月27日(月)和泉クラーク・ホールにおいて、キャリアデザインⅡの授業「卒業生を招いての就職懇談会」を開催しました。保育所、公立保育所(相模原市)、認定こども園(幼稚園型)、障がい者支援施設、特別養護老人ホームに勤務している5名の卒業生を招き、就職活動体験、保育者、支援員、介護福祉士としての仕事のやりがいなどについて講演をしていただきました。学生たちは、真剣な表情でメモを熱心にとりながら先輩方の話を聴いていました。



避難・防災訓練

6月12日(水)、公益財団法人 相模原市まち・みどり公社、青葉二丁目自治会共催による、避難・防災訓練を相模原市消防局相模原消防署緑が丘分署に協力いただき実施しました。

1号館 栄養実習室から火災が発生したとの想定で、教職員誘導が学生を相模原市広域避難所である淵野辺公園中央広場に誘導しました。また、相模原消防署緑が丘分署の消防士の方々の指導により、水消火器による消火訓練、起震車による地震体験、煙体験ハウスによる避難訓練、心肺蘇生・自動体外式除細動器(AED)の使用法の体験を行いました。体験終了後は、学内に設置されている災害対策用井戸から汲み上げた地下水を、造水機を通して飲料水にするデモンストレーションを行い、学生と教職員が試飲しました。



後援会第12期総会

2019年6月15日(土)和泉短期大学後援会第12期総会が開催されました。潮田健治後援会会計担当による開会祈禱で始まり、雑賀えり子後援会会長の挨拶、平岩夏美父母会会長、遠藤陽子同窓会会長による来賓挨拶、2018年度事業報告および決算、2019年度事業計画および予算について審議され、全て承認されました。総会後には、前後援会会長で日本キリスト教会上溝教会の木村治男牧師による記念講演「相模原とキリスト教会」が行われ、相模原市に戦前キリスト教会が建てられなかった理由、相模原市誕生までの歴史等についてお話いただきました。



2019年度 新任教員紹介

助 教 星 早織



私は和泉短期大学を卒業後、和泉で事務職員として2年間勤めさせて頂きました。その後大学へと編入学し、公立保育所にて勤務しておりました。在職時に、大学院へ進学し、現場での気づきを学びの場で深め、それをまた現場で活かす、という生活を送っておりました。そして、今年度より縁あって母校に戻り、教員として働かせて頂いております。

大学、大学院と学んできましたが、自分にとっての保育の土台は和泉での学びであったと強く思います。これから保育実践者となる学生さん達のしっかりとした土台づくりの一翼を担えるよう私自身も日々精進し、多くの後輩達と共に学んで参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



助 教 渡部 美佳

今年度より和泉短期大学にてお世話になることになり、実習サポートセンターに着任致しました。人生の中で最も重要な時期といわれる「乳幼児期」、それを支える「保育者」の養成に携わること

「実習」は保育者になるために欠かすことができない学びのひとつです。一人一人の学生がこれまでの学びを基にこれからの学びに繋げていくことができるよう、サポートしていきたいと思っております。皆様からお力添えを仰ぎつつ業務に励んで参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

人事

退職 (2019年3月31日付)

- 片山 知子 教授
- 上田 よう子 助教(契約)
- 山脇 祥子 広報渉外ユニット主任

就任 (2019年4月1日付)

- 土橋 正文 学校法人和泉短期大学 第6代事務局長(3期目)
任期：2019年4月1日～2023年3月31日(4年)

教員部長職 任期(2019年4月1日～2021年3月31日)

- 松浦 浩樹 和泉短期大学副学長・教務部長・認証評価連絡調整責任者(ALO)
- 西田 恵一郎 宗教部長(兼)
- 櫻井 奈津子 地域連携推進センター長・図書館長
- 鈴木 敏彦 大学入試広報部長
- 大下 聖治 学生部長
- 山本 美貴子 実習サポートセンター長

任用 (2019年4月1日付)

- 武石 宣子 特任教授
- 下西 潤子 特任講師
- 星 早織 助教

- 渡部 美佳 助教(実習サポートセンター)
- 池田 なつみ 教育・学習支援ユニット(実習担当)

昇任 (2019年4月1日付)

- 佐久間志保子 教授
- 穴井 康夫 教育・学習支援ユニット主任

配置 (2019年4月1日付)

- 土橋 正文 庶務ユニット(経理担当)リーダー兼広報渉外ユニットリーダー(兼務を命ずる)
- 田中 孝一 教育・学習支援ユニットサブリーダー(実習兼務)
- 木村 文紀 庶務ユニット(経理担当)・法人担当(兼務)サブリーダー
- 芹澤 薫 庶務ユニット(経理担当)サブリーダー
- 松倉 理沙 庶務ユニット(法人担当)主任兼広報渉外ユニット主任(広報渉外ユニット)
- 和泉 幸子 学術情報ユニット(契約)
- 和泉 幸子 教育・学習支援ユニット(派遣)

表彰

第8回 2018年度ベストオブスタッフ賞(事務局長賞)

- 穴井 康夫 教育・学習支援ユニット主任

永年勤続30年(2019年5月15日)

- 曾根 真理子 学生支援ユニットリーダー
- 田中 孝一 教育・学習支援ユニットサブリーダー(実習兼務)

永年勤続15年(2019年5月15日)

- 矢野 由佳子 准教授

訃報



学校法人和泉短期大学元理事、元評議員・非常勤講師の布施英雄先生が2019年6月21日に召天されました(享年94歳)。ご遺族の上に、神様のお慰めと平安をお祈りいたします。

現職

- 一般財団法人共愛館 代表理事
- 社会福祉法人愛清館 理事長、社会福祉法人愛隣団理事長

歴任された役職

- 墨田区地域福祉計画推進協議会会長
- 墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会会長
- 社会福祉法人全国保育協議会常任協議員
- 社会福祉法人東京都社会福祉協議会理事・保育部会長
- 日本キリスト教社会事業同盟理事長
- 墨田区私立保育園協会会長

学校法人和泉短期大学経歴

- 理事 1982年6月1日～1998年5月31日(16年間(4期) 任期満了)
- 学長候補者選考委員長、人事担当理事、財務担当理事等
- 評議員 1985年7月29日～2012年6月14日(約27年間(14期))
- 施設整備推進特別委員会委員

非常勤講師

- 1987年度～1999年度(13年間)
- 和泉短期大学・和泉老人福祉専門学校 担当科目 地域福祉論

布施英雄先生は、1956年に本学の起源であるバット博士記念養成所に於いて開催された児童養護施設従事者の資質向上を図ることを目的とした第1回現任職員員の訓練講習会の講師として「レクリエーション」を担当していただきました。以来、非常勤講師として、評議員として、理事として、本法人を永年に渡りお支えいただきました。先生の講義は、明快で分かりやすく、学生から好評でした。2019年6月26日(水) 日本キリスト教団頌栄教会で告別式が行われ、本法人を代表して伊藤忠彦理事に参列していただきました。

事務局長 土橋 正文

故 齊藤 茂留氏 櫻井奈津子教授 御尊父

主による平安をお祈りいたします。(2019年6月30日)

— 2018年度決算書概要説明 —

注意を要する経営状況

2019年5月25日(土)開催の理事会、評議員会において2018年度決算が承認されました。
 2018年度決算概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「事業活動収支計算書」、財政的安全性を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。
 本法人の財務に関する公表に於いては、資金収支決算概要、活動区分資金収支決算概要、事業活動収支決算概要、貸借対照表決算概要を公表します。
 資金収支計算書は、2018年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入合計は628,063千円です。これに対し、資金支出合計は、721,867千円です。93,804千円支出超過です。
 2018年度末支払資金である翌年度繰越支払資金(現金預金)は2,031,774千円で、前年度繰越支払資金(現金預金)2,125,578千円に比べ資金収支差額は、93,804千円減少しました。
 事業活動収支計算書は、当該年度の学校法人の収入及び支出の均衡状況を明らかにし、学校法人が健全であるかを示す計算書です。3つの収支区分(①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支)から構成されています。
 経常収入(教育活動収入552,984千円と教育活動外収入16,555千円)569,539千円の約86%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本法人の運営に甚大な影響を及ぼすことになります。事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)△78,893千円から第1号基本金20,452千円と第3号基本金1,875千円の合計額である22,327千円の基本金を組入れた後の当年度収支差額は101,220千円支出超過でした。
 教育活動支出の大半を占める人件費は、390,102千円で人件費比率は、68.5%です。教育研究経費は、162,281千円、管理経費は、121,618千円でした。
 3つの区分の合計額である事業活動収入計は595,931千円、事業活動支出計は、674,824千円でした。
 2018年度予算の事業活動収支差額は125,260千円支出超過でしたが、決算では、私立学校施設設備費補助金、有価証券の売却収入、教育研究費、管理経費の維持管理の効率的、効果的な支出を図り、予備費は3,600千円の使用のため、78,893千円支出超過になりました。
 貸借対照表は、2018年度末における当法人の資産の部、負債の部、純資産の部の3つの要素から構成され、学校法人の財政状態を明らかにする計算書です。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品等については、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。
 資産の部合計は、8,582,027千円です。退職給与引当金と前受金が大部分を占める負債の部合計は、358,004千円です。基本金と繰越収支差額で構成されている純資産の部合計は、8,224,023千円です。負債の部合計と純資産の部合計は8,582,027千円です。

— 2019年度予算書概要説明 —

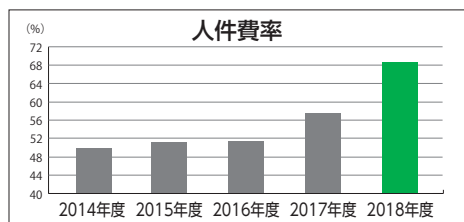
厳しい予算編成

2019年3月22日(金)評議員会、理事会において2019年度予算が承認されました。計算書類の予算書は、資金収支予算書と事業活動収支予算書で構成されます。2019年度予算は計算書類の概要を説明いたします。資金収支予算書の資金収入合計は、732,603千円、資金支出合計は836,975千円です。資金収支差額は、104,372千円支出超過になる見込みです。
 事業活動収支予算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つに区分され、区分ごとに収支差額を求めます。
 3つの区分の合計額である事業活動収入計は569,132千円です。基本金組入額合計は、6,773千円です。事業活動支出計は予備費30,000千円を含め716,381千円です。2019年度事業活動収支差額は、147,249千円支出超過になり、大変厳しい予算編成です。

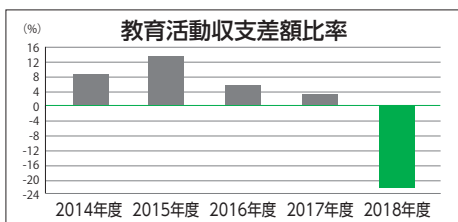
今後の和泉短期大学の財政見通しについて

少子化による18歳人口の減少、保育を取り巻く環境の変化、受験生の4年制大学志向等、本学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。
 本学は、経常収入の86%を学納金に依存している現状において、入学者の定員確保、離学者の防止は喫緊の課題です。
 2018年度は、1号館図書天井(非構造物)耐震補強工事(学内では2か所目)、2号館ブロック塀撤去後にネットフェンス設置工事を行いました。2019年度は和泉クラーク・ホール照明器具落下防止工事、1号館窓枠サッシカバー工法漏水対策工事等を行います。相模原市に移転後43年が経過し、1号館等の修繕工事計画及び教育研究活動の維持向上を図るために教育環境の整備計画と経費削減をはじめとした経営の効率化とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図って参ります。
 深町正信理事長による「2019年度学校法人和泉短期大学の基本構想」は、4つ柱として1.社会福祉法人相模和泉福祉社会和泉保育園との協力連携体制の強化、2.専攻科介護福祉専攻存続の検討、3.建学の精神、スクールモットーに基づく教育と研究の明確化、4.新スクールパスの導入と運行委託会社変更を中心に事業展開をして参ります。
 年々厳しさを増している状況下において、本学の教育環境を整備充実させていくために、2019年度も教育環境充実資金募金活動と2018年度創設の「愛のいずみ基金奨学金」の募金活動を行います。また、定員確保とさらなる発展を目指して今後も「出るを制して、入るを計る」ことを原則とし、日頃から業務改善と経費削減に取り組み、入念に効率的にそして慎重に予算を執行し資金の有効活用に努めます。
 建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」に基づいた本学の特色のある教育を展開し、学生にとって居心地の良い明るいキャンパス、地元密着型、実力養成型の短期大学を目指して教職員、法人関係者一体となり努力して参ります。

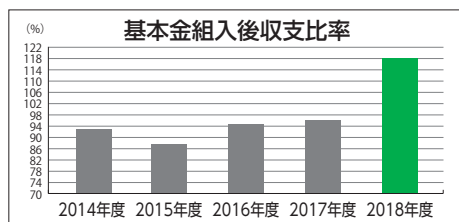
— (2014年度～2018年度) 財務比率推移(グラフ)と説明 —



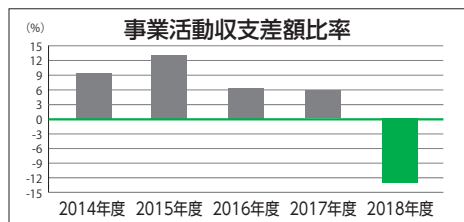
経常収入に対する人件費の割合。50%以内が目安です。人件費は、経常支出の中でも最大の比重を占める支出です。人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は最重要課題です。2018年度は11.1ポイント上昇しました。



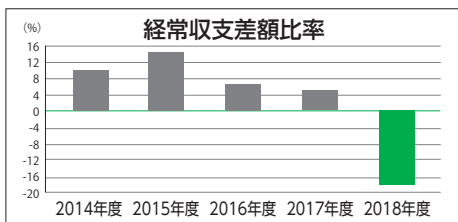
本業である教育活動の収支バランスを表す比率。学校本来の教育活動による収支差額を表わして、本業である教育活動収入の範囲内でどの程度余裕を持って運営できているかを把握することができます。



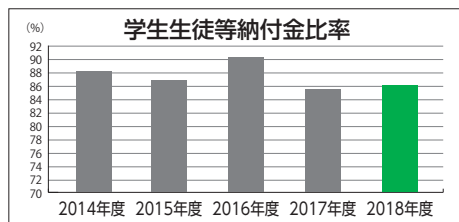
事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率。90%以上になると経営が困難になると言われています。臨時的な固定資産の取得等による基本金組入が著しく大きい年度において、一時的に上昇する場合があります。2018年度は学納金減収により、100%を上回りました。



従来は帰属収支差額比率。学校法人の純利益を表す、重要な財務比率です。比率がプラスで大きいほど自己資金が充実しています。プラス分から将来の施設設備の取替更新の余裕を示します。マイナスが何年も継続して行くとは経営は窮迫し、資金が枯渇します。10%以上を経営安定の指標としています。2018年度は初めて特別収支を除いてもマイナスになりました。



経常的な活動に関する収支バランスを表す比率。この比率は、臨時的な収支を考慮しない通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は財政がひっ迫していることを表しています。支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金ショートを起こすことはありません。経営の健全性を表す指標です。



経常収入に占める学生生徒等納付金収入の割合です。経常収入に占める学生生徒等納付金への依存度が高いため、学生数の減少は、経営に甚大な影響を及ぼすため補助金、その他の収入の増額を諮る必要性があります。

— 資金収支計算書概要 —

収入の部

(単位：千円)

科 目	2018年度決算額	2019年度予算額
学生生徒等納付金収入	489,802	489,230
手数料収入	7,120	8,155
寄付金収入	1,870	1,500
補助金収入	50,657	34,070
国庫補助金	50,586	34,000
地方公共団体補助金	71	70
資産売却収入	15,756	0
付随事業・収益事業収入	642	5,662
受取利息・配当金収入	16,555	19,465
雑収入	10,411	11,050
前受金収入	168,970	213,450
その他の収入	50,234	126,088
資金収入調整勘定	△ 183,954	△ 176,067
資金収入合計	628,063	732,603
前年度繰越支払資金	2,125,578	2,031,774
収入の部合計	2,753,641	2,764,377

支出の部

(単位：千円)

科 目	2018年度決算額	2019年度予算額
人件費支出	392,180	395,713
教育研究経費支出	103,222	114,528
管理経費支出	114,549	108,927
施設関係支出	20,463	108,785
設備関係支出	4,481	1,723
資産運用支出	69,237	69,754
その他の支出	23,499	9,175
[予備費]		30,000
資金支出調整勘定	△ 5,764	△ 1,630
資金支出の部合計	721,867	836,975
翌年度繰越支払資金	2,031,774	1,927,402
支出の部合計	2,753,641	2,764,377
資金収支差額	△ 93,804	△ 104,372

— 事業活動収支計算書概要 —

(単位：千円)

科 目	2018年度決算額	2019年度予算額
事業活動収入の部		
学生生徒等納付金	489,802	489,230
手数料	7,120	8,155
寄付金収入	1,870	1,500
経常費等補助金	40,453	34,070
付随事業収入	642	5,662
雑収入	13,097	11,050
教育活動収入計	552,984	549,667
事業活動支出の部		
人件費	390,102	393,596
専任教員給	202,526	203,157
兼任教員給	15,247	10,275
専任職員給	158,045	161,418
兼任職員給	10,027	11,070
役員報酬	3,800	3,740
退職給与引当繰入額	0	3,468
退職金	457	468
教育研究経費	162,281	176,613
(減価償却額)	59,061	62,085
管理経費	121,618	116,172
(減価償却額)	7,369	7,245
(広報宣伝費)	20,912	22,296
教育活動支出計	674,001	686,381
教育活動収支差額	△ 121,017	△ 136,714
外収支活動		
受取利息・配当金	16,555	19,465
教育活動外収入計	16,555	19,465
教育活動外支出計	0	0
教育活動外収支差額	16,555	19,465
経常収支差額	△ 104,462	△ 117,249
特別収支		
資産売却差額	15,756	0
その他の特別収入	10,636	0
特別収入計	26,392	0
資産処分差額	328	0
その他の特別支出	495	0
特別支出計	823	0
特別収支差額	25,569	0
[予備費]		30,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 78,893	△ 147,249
基本金組入額合計	△ 22,327	△ 6,773
当年度収支差額	△ 101,220	△ 154,022
前年度繰越収支差額	2,957,326	2,856,106
基本金取崩額	0	0
翌年度繰越収支差額	2,856,106	2,702,084
事業活動収入計	595,931	569,132
事業活動支出計	674,824	716,381
事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)	△ 78,893	△ 147,249
事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)	△ 13.2%	△ 25.9%

— 2018年度 貸借対照表概要(2019年3月31日) —

(単位：千円)

資産の部			
科 目	2018年度末	2017年度末	増 減
固定資産	6,533,647	6,530,525	3,122
有形固定資産	2,902,187	2,943,417	△ 41,230
土地	1,928,418	1,928,418	0
建物	827,112	859,171	△ 32,059
構築物	12,707	14,978	△ 2,271
教育研究用機器備品	43,538	49,498	△ 5,960
管理用機器備品	6,667	8,328	△ 1,661
図書	83,745	83,024	721
特定資産	2,891,736	2,830,441	61,295
第2号基本金引当特定資産	100,000	100,000	0
第3号基本金引当特定資産	333,736	331,861	1,875
減価償却引当特定資産	1,919,000	1,856,580	62,420
退職給与引当特定資産	179,000	182,000	△ 3,000
施設拡充引当特定資産	360,000	360,000	0
その他の固定資産	739,724	756,667	△ 16,943
電話加入権	690	690	0
施設利用権	398	550	△ 152
有価証券	0	9,600	△ 9,600
奨学貸付金	0	0	0
定期預金	727,900	736,327	△ 8,427
積立保険金	10,736	9,500	1,236
流動資産	2,048,380	2,148,099	△ 99,719
現金預金	2,031,774	2,125,578	△ 93,804
未収入金	13,534	19,257	△ 5,723
貯蔵品	3,072	3,264	△ 192
資産の部合計	8,582,027	8,678,624	△ 96,597

(単位：千円)

負債の部			
科 目	2018年度末	2017年度末	増 減
固定負債	177,025	181,790	△ 4,765
退職給与引当金	174,475	179,240	△ 4,765
預り敷金	2,550	2,550	0
流動負債	180,979	193,919	△ 12,940
未払金	5,765	17,582	△ 11,817
前受金	168,970	170,420	△ 1,450
預り金	6,244	5,917	327
負債の部合計	358,004	375,709	△ 17,705
純資産の部			
科 目	2018年度末	2017年度末	増 減
基本金	5,367,917	5,345,590	22,327
第1号基本金	4,884,182	4,863,729	20,453
第2号基本金	100,000	100,000	0
第3号基本金	333,735	331,861	1,874
第4号基本金	50,000	50,000	0
繰越収支差額	2,856,106	2,957,325	△ 101,219
翌年度繰越収支差額	2,856,106	2,957,325	△ 101,219
純資産の部合計	8,224,023	8,302,915	△ 78,892
負債の部、純資産の部	8,582,027	8,678,624	△ 96,597

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額
2. 翌会計年度以降の基本金への組入額

1,980,906千円
0千円

2019年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にありますが本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2019年6月～2020年3月(第2期)
募金金額 1口5,000円
払込方法 郵便振替口座
 口座番号 00280-6-105705
 口座名 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2019年4月1日～2019年7月31日>

秋山 信義/穴井 康夫/井狩 芳子/池田 悦子/石川 明雄/今泉 治子/梅澤 尚代/小椋 郊一/長田 清/雑賀えり子/佐久間志保子/佐藤 蘭美/佐藤 守男/潮田 健治
 下西 潤子/高田由利美/武石 宣子/長山 篤子/新美 臣江/西田恵一郎/平塚 豊/深町 正信/松田 壯吾/森 三樹/山本美貴子/脇田 慎司 以上26件 490,010円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

2019年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保育専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2018年5月に学校法人和泉短期大学は創立63年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は19,234名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げる次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2019年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業 震災・災害対策
 (4号館和泉クラーク・ホール照明器具の改修工事)
 和泉クラーク・ホール音響設備
 その他教育環境改善費他

寄付者一覧(敬称略) <2019年4月1日～2019年7月31日>

穴井 康夫/井狩 芳子/池田 悦子/石川 明雄/今泉 治子/梅澤 知代/江尻 直人/小椋 郊一/長田 清/小野 健/於本 千尋/岸田 登/小山 尚志
 今野 博美/雑賀えり子/酒野 美玖/佐藤 蘭美/佐藤 守男/志村美佐子/島田 孝/下園 幸一/下西 潤子/武石 宣子/仲澤 眞/長山 篤子/永山 朋子
 並木 一裕/新美 臣江/平塚 豊/深町 正信/藤澤伊佐夫/松田 壯吾/森 三樹/八木 正斗/山本美貴子/鷺津 博之/匿名希望 以上37件 435,010円

募金目標金額 10,000,000円
募金募集期間 2019年6月1日～2020年3月31日
募金金額 1個人1口 5,000円
 2法人1口 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)
 042-754-1133

第53回いずみ祭「～ just smile ～いずみ祭、笑顔の花を咲かせな祭」

10月26日(土)・27日(日)に第53回「いずみ祭」を開催します。テーマは、「～ just smile ～いずみ祭、笑顔の花を咲かせな祭」です。各グループが一致団結して歌い上げる見事な合唱と歌に合わせたパフォーマンスのサウンドコンテスト、子どもから大人まで楽しめる様々な出し物や模擬店、高校生向けのミニオープンキャンパスなど、イベントが盛りだくさんです。熱気と感動に包まれるいずみ祭にぜひお越し下さい。

いずみのひろっぱ(同窓会主催)

10月27日(日)11時～14時 於:200教室(予定)
スクールバス発車時刻(両日)
 相模大野駅・淵野辺駅共
 9時30分、10時30分、11時30分、12時30分



2019年度 夏の工事について

夏期休業期間に下記の通り工事を実施します。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力を宜しく願います。

工事名	場所	実施時期	内容	実施会社
1 地面陥没による汚水管・雨水管修理及び客土	3号館外周東側	2019.7.20・26	汚水柵・雨水柵の修理及び客土	戸田建設(株)・(有)八木園芸
2 池の電磁弁交換	1号館中庭	2019.8月中	経年劣化で作動しない	(有)八木園芸
3 外灯照明器具をLEDに更新	1号館外周	2019.8月中	10箇所	小田島電気
4 天吊照明器具改修工事	3号館和泉クラーク・ホール	2019.7.30～8.23	耐震対策	戸田建設(株)
5 ピアノ調律	1・3・4号館	2019.8.5～8	ピアノの調律	(株)松栄楽器店
6 アルミサッシカバー工法による漏水対策	1号館・105教室、ML教室、会議室、共同研究室	2019.8.7～10	既存の枠の上から新しい枠を取付け、ガラス窓を新しくする	戸田建設(株)
7 エレベーター機能維持工事	4号館	2019.8.13	3年計画の1年目	日本オーチス・エレベータ(株)
8 11教室 正面黒板下 壁塗装	1号館・101・104・200・201・203・204・205・301・303・304・305	2019.8.13～14	教室の正面黒板下の壁を塗装する	一友ビルドテック(株)

夏期一斉休暇期間 8月9日(金)～16日(金)

庶務ユニット(施設担当)